

問 白馬高校の平成27年度の募集は

答 従来通り、普通科2クラス募集



太田伸子議員

【村長の政策について】

問 村長選においての「停滞から前進」の停滞とは。

村長 様々な施策において、庁内においてアイデアがありながらも具体化できなかった点だと思います。

問 前村長就任時の基金が4億円強から16億9千万円に、実質公債比率が23%を超えていたのを13・2%まで下げた村の財政を健全化させてきたと思うが、それでも停滞というのは。

村長 長野オリンピックの投資からの財政逼迫からここまで健全化された実績は、誰もが認めるところであります。

問 では、停滞はどこのことか。

村長 苦しい財政や様々な案件、出来事があり、思ったことが出来なかったということです。

問 様々な案件、つまり下水道や滞納、ごみ問題などは、前の前の村長からの事業であるが、現職が肅々と公務するのが行政の継続であると考えて。ここに、まだ結論に至っていない下水道問題や、滞納、新たに固定資産賦課徴収問題などが出てきているが、現職としての対応は。

村長 肅々と解決に向かって進めていきます。

問 白馬高校が、特別に平成27年度募集が従来通りの普通科2クラス募集になった要因は。

村長 宮澤県議や前太田村長の早い段階からの取組み、努力が実を結んだと思っております。

問 平成28年度募集で全国募集するための村長のお考えは。

村長 今すぐにも、アクションを起こしていかねばならないと考えています。皆様のご意見を頂きながら進めていきます。

【ユーテレ白馬について】

問 現在の加入状況は。

村長 8月現在、1908件で、前年の同時期と比べ23件の増です。当初目標の2000件にはまだ及びませんが、ここ数年は、年間20から30件のペースで増加しています。

問 番組編成について、村番組審議会の意見を反映しているか。

村長 審議会では、指定管理内容、繰り返し放送に対する工夫や災害時の情報伝達のあり方、地域と協働での番組作成はできないかなど、熱心かつ建設的なご意見を頂いています。

問 同じ時間帯の番組の繰り返しが多い。もっと村の身近な情報を放送するべきでは。

村長 番組の繰り返しについては同感です。もっと身近な情報を放送することにより、行政と村民が近くなるのではないかと思います。

問 この頃の南木曾町や広島市の土石流の災害を見て、防災や、高齢化が進む村の独居老人やお年寄りの見守りなど、福祉の面からも双方交通信



オリンピック選手をスーパーバイザーに迎えて(白馬高校)

の必要性を強く感じたが、地域情報通信基盤整備事業で、システム整備の考えは。

村長 予算がつけば将来的に考えますが、現在の加入件数を増やすことが必要です。

問 身近な村の情報として、先の村長選の合同演説会の放送が中止になったことに対する感想は。

村長 放送されたものと思っております。中止のことは、今聞かずに済みませんでした。